

新潟市歴史資料だより

資料紹介

旧石山村役場文書

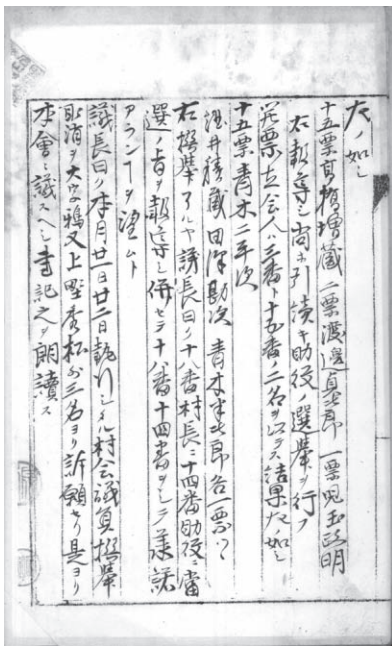
石山村は、明治34（1901）年に石山村・木戸村・山潟村（鍋潟新田を除く）が合併して成立し、役場は大字石山に置かれました。当時の世帯数は851戸、人口は6,274人でした。昭和18（1943）年に新潟市と合併し、役場は支所になりました。

旧石山村役場文書は、石山村の公文書を中心として、支所の文書も一部含んでいます。資料点数は915点です。

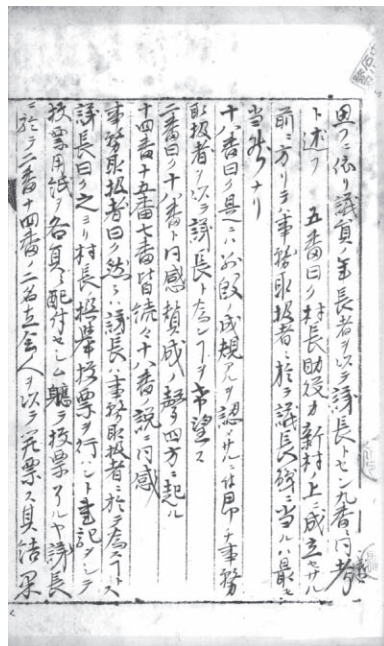
掲載した文書は、明治35年の「石山村会々議録綴」の冒頭に綴られた文書で、同年1月29日に開催された臨時村議会の議事録です。

誰が議長を務めるのか？村議会議員の年長者か？村長事務取扱者か？という議論があった後、議員18名による選挙で村長と助役が決められています。初代村長には高橋増蔵、助役には青木二平次が選ばれました。

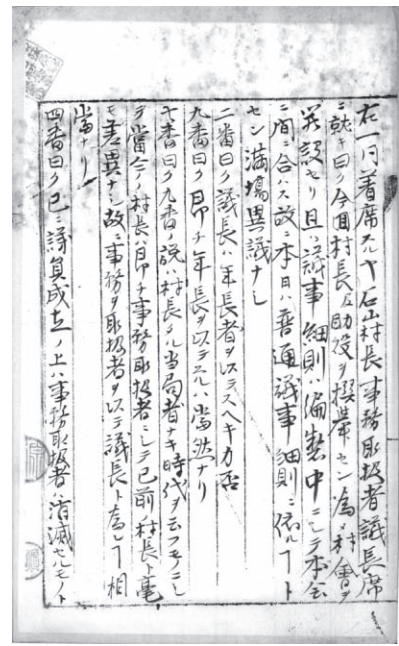
この年、村議会は通常会と臨時会を合わせて12回開催され、合併に伴う諸問題が議論されました。



(四ページ)



(三ページ)



(二ページ)

(一ページ、写真掲載省略)

明治三十五年一月廿九日村会議事録
午前十時開会 議員拾八名
(中略、議員の番号と名前が記される)

(二、四ページ)

右一同着席スルヤ石山村長事務取扱者議長席
二就キ曰ク、今回村長及助役ヲ撰挙セシメテ本会
開設セリ、且ツ議事細則ハ編製中ニシテ本会
二間ニ合ハス、故ニ本日ハ普通議事細則ニ依ルコトト
セン、満場異議ナシ
二番曰ク、議長ハ年長者ヲ以テスヘキカ否
九番曰ク、即チ年長者ヲ以テスルハ当然ナリ
七番曰ク、九番ノ説ハ村長タル当局者ナキ時代ヲ云フモノニシ
テ、当今ノ村長ハ即チ事務取扱者ニシテ已前ノ村長ト毫
モ差異ナシ、故ニ事務ヲ取扱者ヲ以テ議長ト為シコト相
当ナリ

四番曰ク、已ニ議員成立ノ上ハ事務取扱者ハ消滅セルモノト
思フニ依リ、議員ノ年長者ヲ以テ議長トセン九番ニ同考
ト述フ、五番曰ク、村長助役カ新村ノ上ニ成立セサル
前ニ方リテハ、事務取扱者ニ於テ議長職ニ当ルハ最モ
当然ナリ

十八番曰ク、是ニハ別段ノ成規アルヲ認メサルニ付、即チ事務
取扱者ヲ以テ議長ト為シコトヲ希望ス
二番曰ク、十八番ト同感賛成ノ声四方ニ起ル
十四番十五番七番皆統々十八番ノ説ニ同感
事務取扱者曰ク、然ラハ議長ハ事務取扱者ニ於テ為スコトトス、
議長曰ク、之ヨリ村長ノ撰挙投票ヲ行ハント、書記ヲシテ
投票用紙ヲ各員ニ配付セシム、聽テ投票了ルヤ、議長
ニ於テ二番十四番ノ二名立会人ヲ以テ開票ス、其結果
左ノ如シ

十五票 高橋増蔵、二票 渡辺貞次郎、一票 児玉政明
右報導シ尚ホ引続キ助役ノ選挙ヲ行フ
開票立会人ハ三番ト十五番ノ二名ヲ以テス、結果左ノ如シ
十五票 青木二平次
酒井積蔵・田澤勘次・青木半次郎各一票ツ、
右撰挙了ルヤ議長曰ク、十八番村長ニ、十四番助役ニ当
選ノ旨ヲ報導シ併セテ十八番十四番ヲシテ承諾
アラシコトヲ望ムト

(後略)

平成23年度事業概要

多くの方々のご協力を得て、資料の公開・保存などに関する事業を実施しました。概要を紹介します。

■資料の公開

歴史資料整備室で古文書等の複製資料や図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図・土地台帳は、横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所3階）で公開しています。利用の際には、事前に歴史資料整備室へご連絡ください。

今年度の一般利用状況は、以下のとおりです。

区分	図書	更正図	文書	公文書	写真	計
閲覧	38	51	129	13	10	241
複写	70	42	120	15	44	291
掲載	6	0	7	0	21	34
計	114	93	256	28	75	566

(平成24年3月31日現在)

■資料の調査・収集

①資料所在調査

民間に所蔵されている歴史資料の現状確認調査を行っています。今年度は旧新潟（2か所）・豊栄（2か所）・新津（1か所）・白根（1か所）・味方（7か所）・月潟（13か所）・中之口（1か所）の各地区で調査しました。

②歴史公文書の引き継ぎ

市役所各課の廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別し、歴史公文書として引き継いで保存しています。今年度は454点（紙文書320点、電子文書134点）、文書箱にして66箱を引き継ぎました。

■資料の保存

①歴史資料の整理

歴史資料整備室では、市域の各家や各組織から、収集したり寄贈されたりした歴史資料等の整理・目録作成を行っています。今年度の資料整理状況は、以下のとおりです。

文書群名	区分	点数	主な内容
西区黒鳥 鷺尾家文書	寄贈	623	鷺尾政直治水資料
那須塩原市 星野家文書	寄贈	9	旧新潟市街地絵葉書
中央区堀割町 青池氏旧蔵写真	寄贈	67	内野周辺の古写真
東区津島屋 高橋家文書	寄贈	1,385	製材業資料、引札
東区石山 渡辺家文書	寄贈	8	旧石山村更正図
中央区川岸町 (株)新潟放送資料	寄贈	187	昭和初期の新聞

②歴史公文書の整理

平成6年度以降、市役所の各課から引き継いだ歴史公文書の整理・目録作成を行っています。今年度は15年分、6,108点の整理を行いました。

③資料のマイクロフィルム撮影及び複製本の作成

歴史的な文書等のマイクロフィルム撮影と焼付けによる複製本を作成しています。今年度の撮影フィルム本数と複製本冊数は以下のとおりです。

文書群名	資料点数	フィルム本数	複製本冊数	備考・時代
豊栄市役所（木崎支所）文書	111	20	131	大正～昭和
豊栄市役所（岡方支所）文書	118	32	202	明治～昭和

■土地登記申請書（副本）の整理

横越公文書分類センターでは、資産税課所管の土地登記申請書（副本）の整理を行いました。今年度は文書箱66箱分の目録の作成を行いました。

■文書館整備検討委員会の開催

市域の歴史的な文書や歴史公文書を調査・収集し、保存・公開する文書館のあり方について検討する、文書館整備検討委員会を2回開催しました。会議内容は次の通りです。また、11月28日に味方・横越公文書分類センターの視察を行いました。

回	日程	主な会議内容
第3回	8/4	文書館の業務と施設 1. 文書館の業務 (1) 歴史資料の保存と公開 (2) 歴史資料の調査・収集・整理 (3) 歴史情報の提供 2. 文書館の施設規模・設備 3. その他 (1) 長期保存文書の評価・選別について (2) 文書規程の改正について
視察	11/28	味方・横越公文書分類センターの視察
第4回	3/26	1. 文書館整備基本計画について 2. 今後のスケジュール 3. 新潟市文書規程の改正について



味方公文書分類センターの視察の様子

新潟の歴史 こぼれ話 (その1)

歴史資料整備室には、多くの市民の方々から新潟の歴史に関するお問い合わせをいただきます。このコーナーでは、その中からいくつかを紹介していきます。

Q 明和騒動の主導者涌井藤四郎は竹内式部から教えを受けるなどの面識があったのですか？

A 明和5(1768)年9月、長岡藩から課された巨額の御用金の納期延長などを求めて、新潟町の町民は蜂起し、騒動になりました。涌井藤四郎は町民の代表として行動し、一時、町民による自治を実現させましたが、騒動の2年後に処刑されました。一方、

竹内式部は新潟町出身の尊王思想家で、主に京都で活動しました。幕府によって度々弾圧され、騒動前年の明和4年、八丈島へ流される途中に三宅島で亡くなりました。

二人の間に面識があったことを示す資料は、現在のところ見つかっていません。では、なぜ二人の間に交流があったと言われるのでしょうか。明和騒動は、明治以降、いくつかの講談や演劇の題材となりました。その中で、話を面白くするために様々な話が創作されました。藤四郎と式部が子どもの頃から知り合いであったとか、京都で侍に言いがかりを付けられて困っていた藤四郎を式部が助けたなどといった話も、そのようにして作り上げられた話です。

歴史文化施設紹介

一 北前船の時代館 新潟市文化財旧小澤家住宅 一

昨年7月に開館した「旧小澤家住宅」は中央区上大川前通12番町にあります。明治時代以降、回船問屋や港に関わる会社を経営した商家小澤家の住宅兼店舗で、平成14(2002)年に市に寄贈され、18年に市の文化財に指定されました。

上大川前通と思案小路に沿ってL字状に建てられた主屋と新座敷のほか、離れ座敷、家財蔵などの建物が渡り廊下でつながっています。主屋の通りに面した部分には、せがい造り(軒先を深くする造り)や張り出し二階(道路に庇を出して2階部分を張り出す造り)といった新潟の町家らしい姿が見られます。また、建物の北側には明治40年代に築造された庭園があります。クロマツやサツキが植えられ、御影石、佐渡赤玉石などが配された庭園は、当時の新聞に「市内屈指のもの」と記されています。

<案 内>

- ・開館時間：午前9時30分～午後5時
- ・休館日：月曜(休日を除く)、休日の翌日
年末年始(12/28～1/3)
- ・入館料：一般200円(160円)、小中学生100円(80円) カッコ内は団体20人以上
休日は小中学生無料
- ・所在地：新潟市中央区上大川前通12番町2733
- ・電話：025-222-0300
- ・交通：JR新潟駅(万代口)バスターミナルから入船営業所行きバス乗車。バス停「東堀通12番町」下車。徒歩3分。または「上大川前通10番町」下車。徒歩5分。

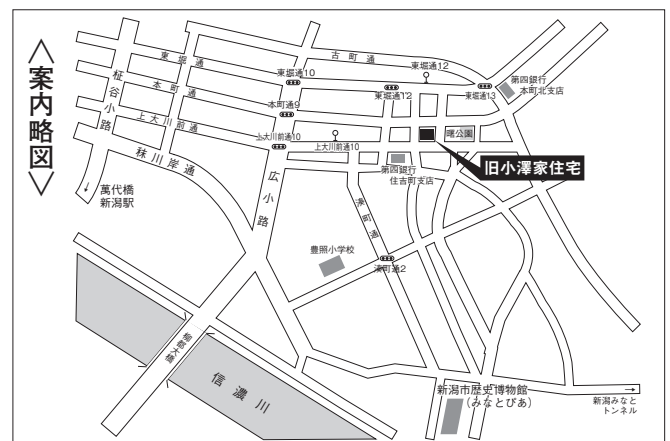


旧小澤家住宅 (右下：上大川前通、左下：思案小路)



撮影：中村 脩

庭園



写真紹介

古町地区の百貨店

平成22(2010)年6月25日、大和新潟店が閉店しました。大和は、新潟三越(元、小林百貨店)とともに、新潟を代表するデパートでした。

両デパートが開業したのは、昭和12(1937)年9月です。大和は、地元の商店主たちが東京の百貨店などの協力を得て開業し、当初の店名は万代百貨店でした。小林百貨店は地元の小林呉服店が創業しました。どちらも開店初日には多くの人押し寄せ、『新潟新聞』は「新しもの好きの市民殺到」「どこもかしこも人波」の見出しでその盛況ぶりを報じました。その後、万代百貨店は、14年に金沢市の丸越百貨店に経営が移り、店名を丸越新潟支店万代、さらに16年には大和新潟店と改称しました。

昭和30(1955)年の新潟大火では両デパートともに類焼しました。大和は増改築工事を行い、32年にはメリーゴランドや空中電車を備えた「屋上プレイランド」を開設しました。小林百貨店は映画館に力を入れ、同年に洋画封切館の「グランド劇場」を開設しました。55(1980)年、小林百貨店の経営が大手の三越に移り、店名は新潟三越になりました。

写真1 昭和30年の大火前の大和新潟店です。バスやオート三輪が走っている通りが笹谷小路、右下の通りが古町通です。壁には大安売りの看板や、投票を呼び掛ける懸垂幕が掛けられています。また、屋上にはRNK(ラジオ新潟、現BSN新潟放送)の看板があります。RNKは、27年に設立され、本社スタジオは大和の7階に置かれました。

写真2 昭和29年の小林百貨店です。右側の通りが笹谷小路で、左下には西堀に架かる西堀橋が見えます。屋上に大きなナショナルの看板があり、壁には「セーターショウ」「開店記念大売出し」「御買徳品山積」などの文字が見えます。

写真3 昭和43年ころの大和の店内の様子です。レジが多くの客でごった返し、店員が支払いの終わった商品を紙袋に詰めています。



写真1 大和新潟店



写真2 小林百貨店



写真3 大和の店内

お願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、ご連絡ください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行 新潟市文化観光・スポーツ部
歴史文化課(担当:歴史資料整備室)
〒951-8131 新潟市中央区白山浦1丁目425-9
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp